令和６（2024）年度

第４学年

学 習 の 内 容 と 評 価

東京学芸大学附属国際中等教育学校

国語科・４学年 【現代の国語・２単位】 Contemporary Japanese Language / MYP: Language and literature

６か年を通した教科目標/養いたい力
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

４学年【現代の国語】の目標/伸ばしたい力
○実社会に必要な国語に関する知識や、それを活用する技能。 ○聞き手の身になって、よりわかりやすく伝えるために必要な「話す力」。 ○自分の考えを深め、他者とよりよいコミュニケーションを図るために必要な、情報を正確に「聞き取る力」や情報を「整理する力」。 ○自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるために必要な「書く力」。 ○文章だけでなく、さまざまなメディアなどから与えられる情報を「読み取る力」。 ○言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：分析（Analyzing）	分析の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
規準 B：構成（Organizing）	構成の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
規準 C：創作（Producing text）	創作の能力を、定期テスト・作品・発表活動などからはかります
規準 D：言語の使用（Using language）	言語の使用の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動・小テストなどからはかります ※７段階評価 観点別評価（８点満点）の合計を IB のバウンダリーと照合して決定します

文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
思考・判断・表現	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	学習への取り組み具合をもとに評価する。

使用教材
教科書：精選現代の国語（明治書院） 副教材：入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500（いいずな書店）・カラー版新国語便覧（第一学習社）

学習内容
○自己と他者 「なぜ本を読むのか」、「言葉が届くとはどういうことか」などの問題を考えながら、アイデンティティ・他者・コミュニケーションについて考えます。 【具体的な学習活動例】 ◆評論文の読み方を学びます　◆分かりやすく説明するための方法を学びます ○認識を深める 旅行や文化に関する文章を読み取りながら、認識や心のあり方について理解を深めます。 【具体的な学習活動例】 ◆考えの広げ方や深め方を学びます　◆新聞記事などのメディアを用い、問いの立て方などを学びます ○言葉と社会 私たちは言葉を通じて世界をどのように認識しながら社会を形づくっているのか、抽象的な問題などにも触れながら学習していきます。 【具体的な学習活動例】 ◆図書館などを利用し、本を紹介し合います　◆得られた情報の整理の仕方を学びます ○共に生きる 「自立」という言葉を考えることから、自分とは異なる人々とどのように共生していけるのかを考えます。 【具体的な学習活動例】 ◆文章を読み比べ、比較の仕方を学びます　◆情報を整理しながら話し合う方法を学びます ○世界を広げる テーマの異なる様々な文章に触れながら見識を広げ、ものの見方や考え方を豊かにしていきます。 【具体的な学習活動例】 ◆論理的なレポートの書き方を学びます　◆ポスターセッションの方法を学びます ※教材は、基本的には教科書を使用し、単元の内容や必要に応じて担当教員が作成した補助教材も用います。

備考
必履修科目

国語科・４学年 【言語文化・２単位】　Language Culture / MYP: Language and literature

６か年を通した教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
４学年【言語文化】の目標/伸ばしたい力	
○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能 ○我が国の言語文化に対する理解を深める力 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力 ○他者との関わりの中で伝え合う力 ○言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準 A：分析（Analyzing） 規準 B：構成（Organizing） 規準 C：創作（Producing text） 規準 D：言語の使用（Using language）	分析の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります 構成の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります 創作の能力を、定期テスト・作品・発表活動などからはかります 言語の使用の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動・小テストなどからはかります ※７段階評価 観点別評価（８点満点）の合計を IB のバウンダリーと照合して決定します
文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
思考・判断・表現	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	学習への取り組み具合をもとに評価する。
使用教材	
教科書：精選言語文化（明治書院） 副教材：古典文法（京都書房）・古典文法ドリル（京都書房）・漢文の習得（浜島書店）・カラー版新国語便覧（第一学習社）	
学習内容	
・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、作品や文章の歴史的・文化的背景について理解を深める ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する ・構成や展開、表現の仕方を工夫し、随筆・詩歌などを創作し、批評し合う ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、批評する ・和歌や俳句・詩歌の内容、表現技法などについて調べ、その成果を発表したりレポートなどにまとめたりする ※教材は、基本的には教科書を使用し、単元の内容や必要に応じて担当教員が作成した補助教材も用います。	
備考	
必履修科目	

地理歴史科・４学年 【地理総合・２単位】　Geography / MYP: Individual and Societies

６か年を通した教科目標/養いたい力

○グローバル化が急速に進む今日、国際社会の一員として現代社会の課題に興味や関心を持つ。
○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

４学年【地理総合】の目標/伸ばしたい力

４学年には２つの意味があります。一つは MYP の最終学年としての意味、もう一つは後期課程最初の学年としての意味です。
まず、MYP 最終学年として１～３学年で学習した「社会」の内容と関連させながら、現代的な課題に活かせるような授業展開を行います。
後期課程の始まりの学年として、内容を地理学における「系統地理」分野を中心に学習します。以下の３つが地理総合の目標です。

○世界の様々な地理的事象や地域的特徴を理解するために必要な地理的見方・考え方を身につける。
○世界と私たちとの間の様々な結びつきを見出す能力を身につける。
○様々な視点から物事を考える能力を身につける。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：調査 規準 C：コミュニケーション 規準 D：批判的思考	A：定期試験や授業中の学習活動、課題等から、地理的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。 B：課題等から、明確なテーマ設定、論点の提示、異なる立場や複数のソースから情報収集がどの程度できたかを評価します。 C：課題等から、学習内容や調査内容を創意工夫して再構成し、論点を整理してわかりやすく表現できたかどうかを評価します。 D：定期試験や授業中の学習活動、課題等から、地理的事象を分析し、多角的・多面的に整理した上で、適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。

文部科学省　学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	MYP の規準 A および規準 B に対応します。社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
思考・判断・表現	MYP の規準 C および規準 D に対応します。社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
主体的に学習に取り組む態度	社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。

使用教材

教科書：地理総合（東京書籍）・新詳高等地図（帝国書院）
副教材：新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院）

学習内容

１．地図や地理情報システムでとらえる現代世界
人類は世界を様々な方法で把握してきました。その把握の仕方がどのように発展し、どのような形で世界は把握されているのかを考えます。
＊現代世界の地域構成と結びつき　＊地図や地理情報システムの有用性とその活用

２．国際理解と国際協力
場所や人間と自然環境との相互関係に着目しながら、その関係性を考察していきます。また、現代世界が抱えている地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会を形成していくための国際協力のあり方を考えていきます。
＊生活文化と自然環境　＊生活文化と産業　＊さまざまな地球的課題と国際協力

３．持続可能な地域づくりと私たち
私たちが生活する地域に着目しながら、地域の自然環境や自然災害への理解を深めることと、地域が抱える地理的な課題について、生活圏における調査をもとに課題解決策を探っていきます。
＊自然環境と防災　＊生活圏の調査と地域の展望

備考

○地理総合の授業で用いた「地図帳」や「資料集」は６年次に開講される「地理探究」でも使用します。地理探究を履修する可能性がある生徒は各自で大切に保管してください。

公民科・４学年 【公共/公共(IM)・２単位】　Public / MYP: Individual and Societies

６か年を通した教科目標/養いたい力

○グローバル化が急速に進む今日、国際社会の一員として現代社会の課題に興味や関心を持つ。
○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

４学年【公共/公共(IM)】の目標/伸ばしたい力

「私たちは、いかにしてよりよい社会を作っていくのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己とむきあい、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが、本校公民科の目標である。

MYP 最終学年として、これまで学習してきた社会科のまとめとして３学年で学習した「社会（公民分野）」の内容と関連させながら地理的・歴史的な視点を現代的な課題に活かせるような授業展開を行う。

後期課程の始まりの学年として、今後の地歴・公民科の学習に必要な基礎基本となる学習に対する論理的・批判的思考の訓練となるような授業展開を行う。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：調査 規準 C：コミュニケーション 規準 D：批判的思考	A：期末テスト、授業中の学習活動・まとめ、課題等から、公民的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。 B：課題等から、明確なテーマ設定、論点の提示、異なる立場や複数のソースから情報収集がどの程度できたかを評価します。 C：授業中の調査内容の発表、質疑応答等の様子から、学習内容や調査内容を創意工夫して再構成し、論点を整理してわかりやすく表現できたかどうかを評価します。 D：期末テスト、授業中の学習活動・まとめ、課題等から、資料や社会的事象を分析し、異なる見解を整理した上で、どの程度適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。 1 学期・2 学期の評価および学年の評定は、以上４つの規準による点数（各８点満点）を合計した点数（32 点満点）を、MYP の Individual and Societies の点数換算にしたがって７段階で示します。なお、1 学期・2 学期の 5 段階評価および学年の 5 段階評定は、32 点満点を第 4 学年地理歴史・公民科共通の換算表を用いて算出します。

文部科学省　学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	MYP の規準 A および規準 B に対応します。社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
思考・判断・表現	MYP の規準 C および規準 D に対応します。社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
主体的に学習に取り組む態度	社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。

使用教材

教科書：公共（東京法令出版）
副教材：資料集（とうほう）

学習内容

おもな学習内容は、以下のとおりです。担当教員が作成した学習プリントを用い、映像資料なども活用して学習していきます。

○「公共的な空間における基本原理」　・民主社会の基本原理　・日本国憲法と基本的人権など
○「政治に参加する私たち」　・日本の政治機構　・政治参加と民主政治の課題など
○「経済活動を行う私たち」　・経済のしくみと市場機構　・日本経済の発展と変化など
○「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」　・課題探究

備考

数学科・４学年 【数学Ⅰ・3 単位】 Mathematics I / MYP: Mathematics

６か年を通した教科目標/養いたい力

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。６カ年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

４学年【数学Ⅰ】の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：パターンの探究 規準 C：コミュニケーション 規準 D：実生活への数学の応用	規準 A 数学の概念とスキル（技能）に関する理解について、筆記テストを中心に評価します。 規準 B 様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。 規準 C 場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。 規準 D 数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	テストおよびレポートなど
思考・判断・表現	テストおよびレポートなど
主体的に学習に取り組む態度	レポートの振り返り、授業の振り返りなど

使用教材

教科書：数学Ⅰ Advanced（東京書籍）、数学Ⅱ Advanced（東京書籍）
副教材：TGUISS 数学４（正進社）

学習内容

① 方程式と不等式［４月～９月］

方程式と不等式についての理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを利用できるようにします。また、方程式の解が存在するように数を拡張するとともに、数の概念についての理解を深められるようにします。

（主な学習内容） ２次関数と２次方程式・２次不等式、複素数、等式の証明、不等式の証明

② 指数関数、対数関数［９月～１２月］

これまでの性質を保つように指数を拡張するとともに、身近な事象を指数関数、対数関数を用いて考察、処理できるようにします。

（主な学習内容）累乗根、指数関数、対数関数

③ 統計基礎［１月～３月］

集団としての意見や傾向を知るために行う全数調査や標本調査の利点と欠点、標本調査において信頼を得る方法、および、データの散らばりや相関を数値化する方法を理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにします。

（主な学習内容）全数調査と標本調査、分布、分散と標準偏差、相関係数、仮説検定の考え

備考

数学科・４学年 【数学 A／数学 A（IM）・２単位】　Mathematics A / MYP: Mathematics

６か年を通した教科目標/養いたい力

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。６カ年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

４学年【数学Ⅰ】の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：パターンの探究 規準 C：コミュニケーション 規準 D：実生活への数学の応用	規準 A 数学の概念とスキル（技能）に関する理解について、筆記テストを中心に評価します。 規準 B 様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。 規準 C 場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。 規準 D 数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

文部科学省　学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	テストおよびレポートなど
思考・判断・表現	テストおよびレポートなど
主体的に学習に取り組む態度	レポートの振り返り、授業の振り返りなど

使用教材

教科書：数学 A Advanced（東京書籍）、数学 B Advanced（東京書籍）
副教材：TGUISS 数学４（正進社）

学習内容

① 確率［４月～６月］

ある事柄が起こる度合いを調べるために，シミュレーションを行うとともに，その観察を通して，確率の考えについて理解します。また，確率の基本的な法則を用いて，様々な事象の確率を求められるようにするとともに，確率を用いた判断ができるようにします。

（主な学習内容）確率とその基本的な性質，期待値，独立試行の確率，反復試行の確率，条件付き確率，確率の乗法定理

② 数列［6 月～12 月］

具体的な事象における逐次的な変化を，式を用いて表し，数学的に考察し処理できるようにします。

（主な学習内容）漸化式，数列の一般項と和，数学的帰納法 ③ 初等幾何［1 月～3 月］ 平面図形および空間図形について，いろいろな性質を見いだしたり証明したりできるようにします。 （主な学習内容）三角形の性質，作図，空間図形
備考

理科・４学年 【SS 物理基礎・２単位】　Basic Physics / MYP: Sciences

６か年を通した教科目標/養いたい力

科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。

４学年【SS 物理基礎】の目標/伸ばしたい力

SS 物理基礎は、本校の SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。
以下を身につけることを目指す。
・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
・科学技術の可能性とその限界への理解と意識
それらをふまえて、物理的な事物・現象についての観察、実験などをおこない、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を修得する。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：探究とデザイン 規準 C：手法と評価 規準 D：科学による影響の振り返り	【A】科学的概念や知識の理解・活用について定期テストなどで評価する。 【B】モデル・シミュレーションの活用、論理的展開や数理科学に基づく表現、科学概念の一般化・抽象化や仮説を系統的に組み立てた説明等をレポートや定期テスト等で評価する。また、実験操作技能について、実施状況とレポート等で評価する。 【C】実験の方法やデザインを評価し、そのデータや結論の妥当性について検討するなどの評価活動、またデータ処理、科学的推論、科学的知識の活用・応用をレポート等で評価する。 【D】具体的な問題または課題、技術の発展に科学がどのように応用されているか説明し、それが社会に与える影響などについて論じたレポート等で評価する。

文部科学省　学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	

使用教材

教科書：物理基礎（東京書籍）

学習内容

運動や力のはたらき、仕事とエネルギー、音波などの波動などの単元を通して、身近にある自然現象や応用技術など私たちの生活と物理学の関わりについて学びます。

１．運動の表し方：速さと速度、加速度　など
２．運動の法則：力の運動の関係、運動の三法則、抗力（摩擦力など）など
３．仕事とエネルギー：仕事、力学的エネルギー、熱、電気など
４．波動：波の性質、伝わり方、波の重ね合わせ、反射　など
５．音波：音波の性質、伝わり方、共振・共鳴　など

備考

理科・４学年 【SS 生物基礎・２単位】 Basic Biology / MYP: Sciences

６か年を通した教科目標/養いたい力
自然に対する関心を高め、生物のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

４学年【SS 生物基礎】の目標/伸ばしたい力
SS 生物基礎は、本校のＳＳＨ(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。また、IBMYP の以下の目標を身につけることを目指す。 A. 知識を身に付け、理解する。 B. 探究し、デザインする。 C. 情報を処理し、評価する。 D. 科学が与える影響を考察する。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：探究とデザイン 規準 C：手法と評価 規準 D：科学による影響の振り返り	実験の取り組み【規準 B、C】 レポート等提出物【規準 A、B、C、D】 テスト【規準 A、B、C、D】

文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	

使用教材
教科書：生物基礎（数研出版）

学習内容

１．生物と遺伝子

ア 生物の特徴

（ｱ） 生物の共通性と多様性:生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解すること。

（ｲ） 細胞とエネルギー:生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解すること。

イ 遺伝子とその働き

（ｱ） 遺伝情報と DNA:遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解すること。

（ｲ） 遺伝情報の分配:DNA が複製され分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解すること。

（ｳ） 遺伝情報とタンパク質の合成:DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解すること。

ウ 生物と遺伝子に関する探究活動

２．生物の体内環境の維持

ア 生物の体内環境

（ｱ） 体内環境:体内環境が保たれていることを理解すること。

（ｲ） 体内環境の維持の仕組み

体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解すること。

（ｳ） 免疫:免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解すること。

イ 生物の体内環境の維持に関する探究活動

３．生物の多様性と生態系

ア 植生の多様性と分布

（ｱ） 植生と遷移

陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解すること。

（ｲ） 気候とバイオーム気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解すること。

イ 生態系とその保全

（ｱ） 生態系と物質循環

生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解すること。

（イ）　生態系のバランスと保全 生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識すること。 ウ　生物の多様性と生態系に関する探究活動
備考

理科・４学年 【科学と人間生活(IM)・２単位】　Science and Our Daily Life / MYP: Sciences

６か年を通した教科目標/養いたい力	
自然に対する関心を高め、科学が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。	
４学年【科学と人間生活(IM)】の目標/伸ばしたい力	
科学と人間生活は、本校のＳＳＨ(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。また、IBMYP の以下の目標を身につけることを目指す。 A. 知識を身に付け、理解する。 B. 探究し、デザインする。 C. 情報を処理し、評価する。 D. 科学が与える影響を考察する。	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準 A：知識と理解 規準 B：探究とデザイン 規準 C：手法と評価 規準 D：科学による影響の振り返り	実験の取り組み レポート等提出物 小テスト
文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
使用教材	
教科書：科学と人間生活（東京書籍）	
学習内容	
・自然の見方と探究 ・地球と生物の変遷 ・自然と生物の多様性 ・環境と動物の反応 ・人間生活と地球環境の変化	
備考	

保健体育科・４学年 【体育・２単位】　Physical Education / MYP: Physical and Health Education

６か年を通した教科目標/養いたい力	
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するために、運動やスポーツへの多様な関わり方を理解するとともに、体力の向上についての計画的、合理的な学習過程を通して、仲間と競争や協働しながら課題を発見し、主体的に解決を図る資質や能力を育てる。また、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。	
４学年【体育】の目標/伸ばしたい力	
４年生では男女別に授業を行うことをふまえ、各種目の専門的な知識や技能をさらに向上させる。 合理的な実践のために、動きを分析し、良い点や修正点を発見し、主体的に改善していく。 また、ルールやマナーを守り、仲間と協力して高め合う態度や自己の責任を果たす態度を養う。	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準 A：知識と理解 規準 B：活動の計画 規準 C：応用と実践 規準 D：活動の振り返りと改善	規準 A：学期末テスト 規準 B：体育ノート 規準 C：試合におけるパフォーマンス 規準 D：体育ノート及び授業内における活動状況
文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能：学期末テスト、体育ノート、運動のパフォーマンス 思考・判断・表現：学期末テスト、体育ノート 主体的に学習に取り組む態度：体育ノート及び授業内における活動状況
使用教材	
教科書：高等学校保健体育（第一学習社） 副教材：Active Sports（大修館書店）	
学習内容	
体つくり運動 球技（ハンドボール、バスケットボール） 水泳 器械運動（マット運動・跳び箱運動） 球技（バレーボール） ダンス 武道 体育理論	
備考	
見学する場合は、必ず「見学届」を提出してください。	

保健体育科・４学年 【保健・２単位】　Health / MYP: Physical and Health Education

６か年を通した教科目標/養いたい力	
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するために、運動やスポーツへの多様な関わり方を理解するとともに、体力の向上についての計画的、合理的な学習過程を通して、仲間と競争や協働しながら課題を発見し、主体的に解決を図る資質や能力を育てる。また、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。	
４学年【保健】の目標/伸ばしたい力	
「現代社会と健康」では、急激に変化する社会において刻々と変化する健康問題について、自分自身の健康と関連させながらどのように健康を維持増進するのかを考える。また、健康問題は個人の問題であると同時に個人だけの問題ではないことを理解し、これからの社会に求められるものについて考える。 「安全な社会生活」では、応急手当や心肺蘇生法について実践的な知識を身につけ、安全な社会生活実現に向けて個人の取組及び地域の連携の必要性について理解するとともに、これからの社会で自分自身が担っていく役割や責任について考える。	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準 A：知識と理解 規準 B：活動の計画 規準 D：活動の振り返りと改善	学期末テスト プレゼンテーション、レポート等の課題 授業内における活動状況
文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	学期末テスト プレゼンテーション、レポート等の課題 授業内における活動状況
使用教材	
教科書：高等学校保健体育（第一学習社） 副教材：アクティブスポーツ総合版（大修館書店）	
学習内容	
現代社会と健康 安全な社会生活	
備考	

保健体育科・４学年 【シーズンスポーツ・１単位】 Seasonal sports / MYP: Physical and Health Education

６か年を通した教科目標/養いたい力	
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するために、運動やスポーツへの多様な関わり方を理解するとともに、体力の向上についての計画的、合理的な学習過程を通して、仲間と競争や協働しながら課題を発見し、主体的に解決を図る資質や能力を育てる。また、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。	
４学年【シーズンスポーツ】の目標/伸ばしたい力	
雪環境に接し、スキーという用具を活用しながら自然と関わる知識や技能を習得することにより自らを高める喜びを体験し、生涯にわたりスポーツと自然に親しむ技能と態度を育成する。 運動習得を目的とする共同生活を経験することで集団と個の関わりを学び、協調性と社会性を身につける。	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準 A：知識と理解 規準 B：活動の計画 規準 C：応用と実践 規準 D：活動の振り返りと改善	基準 A：課題やレポート、合理的な実践のための分析、課題発見・課題解決 規準 B：事前学習、行動計画と実践 規準 C：スキーの技能 規準 D：講習及び集団生活における活動状況
文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能：講習の記録、スキーの技能 思考・判断・表現：講習の記録、課題やレポート 主体的に学習に取り組む態度：講習及び集団生活における活動状況
使用教材	
副教材：オリジナルテキスト・アクティブスポーツ総合版（大修館書店）	
学習内容	
志賀高原スキー場で３泊４日の実地研修 事前学習（２学期末）、午前・午後のスキー実習（スキー学校のインストラクターによる指導）、夕食後のミーティングや学習会	
備考	
履修を希望する生徒のみの参加となります（２学期に参加意思の確認をします）	

芸術科・４学年 【音楽Ⅰ・２単位】 Music I / MYP: Arts

６か年を通した教科目標/養いたい力

IB 教育の充実を図りながら表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。教科横断的な視点を取り入れることで音楽文化についての理解をより深め、創造的な音楽性を培う。

４学年【音楽Ⅰ】の目標/伸ばしたい力

1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
3 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：調査 規準 B：発展 規準 C：創作・実演 規準 D：評価	（A）ワークシート・作品のリサーチ 主に授業中の学習内容を確認するプリントと、単元で扱っている主要な楽曲に対する調査（リサーチ）が評価の対象となります。 （B）Booklet（プロセスジャーナル）・ディスカッション 基準 C の作品などの、取り組み始めから完成までのプロセス、あるいは、具体的にどのような作品（ゴール）にしようかという議論の記述を評価します。 楽譜によるプロセスはもちろん、DTM などの電子媒体での作成も評価対象です。 （C）歌唱テスト・編曲作品提出・器楽演奏 実技によるスキルの達成度の評価と、リズムなども含む作曲作品の提出で評価します。また、基礎的な実技はもちろん、即興的な演奏や高度な旋律の演奏なども評価します。 （D）グループワーク・相互評価 自らの作品や演奏に対して客観的な視点からの自己分析を評価します。 また、鑑賞作品の学習やディスカッションをふまえながら、単元の探究の問いに対してレポート形式で答えていきます。

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	

使用教材

教科書：MOUSA 1 （教育芸術社）

学習内容

＜歌唱＞

４部合唱から５、６部合唱の響きへと、相互の表現力を高めていきます。また、洋楽をアレンジしたものや、西洋音楽の伝統的な合唱、黒人霊歌などに取り組み、和声的なテンションの方向性も意識しながら取り組んでいきます。２学期には編曲とアンサンブルの単元を通じて、声を含む楽器の役割や組み合わせを意識しながらアンサンブルに挑戦し、３学期には和太鼓演習を通して、即興的な表現の追求をします。

・ハーモニー学習

クロースハーモニーの表現方法を理解し、声による高度なアンサンブルに取り組みます。

・楽曲分析に基づく表現の学習 / グループアンサンブル

自身の持つ音楽的感性や表現能力をアウトプットするために、グループで
編曲活動をし、アコースティックなアンサンブル（演奏）をおこないます。
自己表現方法を追求しながら、グループでの演奏への理解を学習します。

＜鑑賞＞

音楽を通した表現に関する作品について鑑賞力を高めていきます。
音楽素材を十分に活用した近・現代の作品や、音楽史にかかわる鑑賞、また、互いの演奏を鑑賞することを通して鑑賞力を高めていきます。

＜器楽＞

和太鼓演習を通して、基礎的なリズム、八丈太鼓の奏法を学習します。また、短い和太鼓曲の創作を含む、即興的なリズムの演奏を中心に学習してきます。

備考

芸術科・４学年 【美術Ⅰ・２単位】　Art and Design Ⅰ / MYP: Arts

６か年を通した教科目標/養いたい力

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

４学年【美術Ⅰ】の目標/伸ばしたい力

美術科では６年間を３段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。３つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。（４年次は選択必修）
美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。
４年生は様々な表現に触れながら、豊かな感性や創造する力を伸ばす時期と捉え、授業を展開していきます。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：調査	The arts process journal（APJ）、レポート
規準 B：発展	APJ、レポート、ディスカッション
規準 C：創作・実演	表現活動、作品
規準 D：評価	APJ、レポート、鑑賞活動

文部科学省　学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	

使用教材

教科書：美術１（光村図書）

学習内容

１学期
　４～７月
　　絵画・鑑賞　作品を制作・鑑賞しながら、構図や描写を探究します。
　　（主な学習内容・活動内容）スケッチ、油絵具の使い方、構図、形や質感をとらえる、鑑賞

２学期
　９月
　　映像メディア表現・鑑賞　映像メディアの表現について学習し、それらの表現の特性や効果を考察します。
　　（主な学習内容・活動内容）映像メディアを用いた表現、色光、視点、動き等の工夫、鑑賞
　１０～１２月
　　デザイン　目的や計画をもとにした表現を通じて、視覚伝達や環境等に関するデザインの学習をします。
　　（主な学習内容・活動内容）平面または立体のデザイン、目的、機能、美しさを考えた表現、鑑賞

３学期
　１～３月
　　絵画・鑑賞　様々な表現を創造する理由や課程、その結果について探究し表現します。
　　（主な学習内容・活動内容）表現技法研究、創造の過程と結果について、鑑賞

＊行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。

備考

芸術科・４学年 【書道Ⅰ・２単位】 Calligraphy Ⅰ / MYP: Arts

３か年を通した教科目標/養いたい力
様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。
４学年【書道Ⅰ】の目標/伸ばしたい力
４年生の芸術書道は、書道における基礎的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学び、豊かな芸術表現活動ができるようにします。書の様々な表現に触れながら、書道史や芸術、文化にも視野を広げ、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：調査 規準 B：発展 規準 C：創作・実演 規準 D：評価	学習した芸術的な内容や理論的根拠などに関する知識や理解について、授業ごとのワークシートやレポートなどを通じて評価します。 芸術を表現とコミュニケーションの一形態として活用できる力や、発想や主題を構成して具体化する力、作品と作品制作を行う過程などを通じて評価します。 書の表現に必要な基本的なスキルと適切な用具用材の扱い方なども評価します。 自分の作品について充分考えることができたか、発想を自己の技術により具体化するだけでなく、作品制作の過程においても十分な工夫ができたか、またふり返りとフィードバックできたかを学習活動やワークシートを通じて評価します。 制作期限を守って作業をしたか、前向きな制作環境を作って作業したか等についてもワークシートや授業態度などを通じて評価します。 作品の自己評価や他者との相互評価を行い、それらを作品制作に生かせたか、なども評価します。古典や他者の作品を鑑賞することにより、書文化全体への興味・関心を深めることができたかをワークシートやレポート、授業態度などを通じて評価します。

文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	

使用教材

教科書：書Ⅰ（光村図書）

学習内容

【１学期】
●書写から書道
用具・用材の理解とその準備／書写と書道の共通点と相違点／「書写」の復習・筆使いの基本
●漢字の書の学習
書体の成立と楷書の書風比較／臨書学習①「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」
臨書学習②「雁塔聖教序」「自書告身」／臨書学習③「牛橛造像記」「鄭義下碑」
創作作品制作（楷書）／実用書（うちわに書く）
行書の特徴と書風比較／臨書学習④「風信帖」臨書学習⑤「蘭亭序」
【２学期】
●漢字の書の学習
臨書学習⑤「蘭亭序」／創作作品制作（行書・草書）
●仮名の書の学習
仮名の成立／仮名の用筆／仮名の字源・変体仮名・連綿
臨書学習①「蓬莱切」／臨書学習②「高野切第三種」／散らし書き
創作作品制作（散らし書き）／実用書（年賀状）
【３学期】
●漢字仮名交じりの書の学習
漢字と仮名の調和、書く言葉の内容と表現の関係／古典を生かした表現／創作作品制作

備考

外国語科・４学年 【英語コミュニケーションⅠ・３単位】　English Communication I / MYP: Language Acquisition

６か年を通した教科目標/養いたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

４学年【英語コミュニケーションⅠ】の目標/伸ばしたい力

４年次は、前期課程で身につけた知識の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。
既習の語彙・文法を活用しながら、話す・聞く・読む・書く力を総合的に訓練します。聞く・読む活動から、情報を得て、まとめ、分析して話す・書く力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：Listening	テスト
規準 B：Reading	テスト
規準 C：Speaking	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー等
規準 D：Writing	テスト、文法問題、作文、エッセイ等

文部科学省　学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing)
思考・判断・表現	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing)
主体的に学習に取り組む態度	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing) ・Effort（日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価）

使用教材

教科書：CROWN English Communication Ⅰ （三省堂）

学習内容

教科書の内容：

課	タイトル	主な言語材料	題材／場面
L1	The Blue White Shirt	to 不定詞、動名詞	言語・日本文化／スピーチ・家庭生活・学校生活
L2	Does It Spark Joy?	現在完了、現在完了進行形、助動詞	生き方・生活／エッセイ・家庭生活
L3	Hatching the Egg of Hope	関係代名詞、分詞の形容詞的用法、受動態	芸術・国際交流／エッセイ・地域での活動
L4	Digging into Mystery	過去完了・過去完了進行形、関係代名詞 what、S＋V＋O（O＝疑問詞節 / if 節）	歴史・日本文化／プレゼンテーション・学校生活
L5	Roots & Shoots	分詞構文、it ～ that …（形式主語）、同格	環境・共生／インタビュー
L6	You and Your Smartphone ― Who’s in Charge?	関係副詞、S＋V＋O＋C（C＝原形不定詞・分詞）	科学技術／雑誌記事・家庭生活・学校生活
L7	Living in Alaska	seem to ～ ; it seems that ～、S＋is＋C（C＝that 節）、S＋V＋C（C＝分詞）	自然・異文化／講演・地域での活動
L8	Not So Long Ago	仮定法過去、S＋V＋O1＋O2（O2＝疑問詞節）、付帯状況を表す with ～	平和・歴史／レクチャー・学校生活
L9	Our Lost Friend	受動態の完了形、助動詞＋be＋過去分詞、関係代名詞の非制限用法	文化遺産／論説文
L10	Good Ol’ Charlie Brown	仮定法過去完了、used to ～; would ～など、形式目的語 it	生き方・芸術／エッセイ

・Core/Basic：教科書の学習内容を踏まえて、英語を使って自分の意見を根拠とともに発信する学習を中心に行います。さらに語彙や表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。学習のテーマとしては以下を想定しています。
例）偉人、世界の歴史文化、環境、さまざまな言語、平和問題、人生哲学、宇宙

・Advanced：発展的な活動としてインターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。テーマとしては以下の内容を想定しています。
例）時事、政治、文化、環境、人権、社会、生命倫理、戦争と平和、エネルギー、経済、メディア

備考

この科目は必修です。ただし、習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。

外国語科・４学年 【論理・表現Ⅰ・１単位】　Logic and Expression I / MYP: Language Acquisition

６か年を通した教科目標/養いたい力

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語学習が目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。

４学年【論理・表現Ⅰ]の目標/伸ばしたい力

４年次では、英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力やディスカッションする力を身につけていきます。５年次に行われる海外ワークキャンプに必要な多様なスキルを身につけます。

MYP 評価規準	評価方法
規準 C：Speaking 規準 D：Writing	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー 作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省　学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	規準 D (Writing) 規準 C (Speaking) 規準 D (Writing)・規準 C (Speaking)・ Effort （日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価）

使用教材

教科書：CROWN Logic and Expression Ⅰ （三省堂）

学習内容

教科書の内容：

課	タイトル	主な言語材料	題材／場面
L1	*OriHime*	時制	人生・生き方／スピーチ・学校生活
L2	Breakfast Makes Perfect	助動詞	食生活と健康／プレゼンテーション・家庭生活
L3	Cool Japan	受動態	日本文化／ライティング・家庭生活
L4	Save Our Planet	不定詞	環境問題／ディスカッション・学校生活・地域での活動
L5	Volunteer Work for What?	動名詞	ボランティア／ディベート・学校生活・地域での活動
L6	Another Life I Might Have Had	分詞	文学・読書／スピーチ・本を読むこと
L7	What Is Our Greatest Invention?	比較	サイエンス・発明／プレゼンテーション
L8	Discover Japan	関係詞	都市・観光／ライティング・
L9	Urban Life or Rural Life	仮定法	交通・地域／ディスカッション
L10	Music Without a Pianist	接続詞	芸術・テクノロジー／ディベート
P1	My Hobby: Bouldering		スピーチ
P2	A Country I'd Like to Visit		プレゼンテーション
P3	Are Zoos Necessary?		ディスカッション
P4	All Elementary School Stundents Should Have a Mobile Phone		ディベート
P5	E-Book Readers		ライティング

・Core/Basic/Advanced：英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。社会科、数学科、理科、芸術など 他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。

備考

４年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

情報科・４学年 【情報Ｉ・２単位】 Information Study I / MYP: Design

６か年を通した教科目標/養いたい力

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。

(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

４学年【情報Ｉ】の目標/伸ばしたい力

情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。

規準 A 探究と分析

i. 指定されたクライアントやターゲットに対し、問題解決の必要性について説明し、正当化する

ii. 詳細な調査計画を構成し、自分の力で、問題解決を進展させるのに必要な第 1、第 2 の調査を証明し、優先順位を立てる

iii. 問題解決の調査を促す従来製品の類を詳細に解析する

iv. 詳細な設計概要（デザインブリーフ）を発展させ、関連調査の解析を要約する

規準 B アイデアの発展

i. 詳しい設計仕様を発展させ、調査や解析を基に解決策の設計のための成功基準を説明する

ii. 適切なメディアと詳細な注釈を使った実行可能なデザインアイデアの範囲を発展させ、他者から正しく理解される

iii. 選んだデザインを発表し、設計仕様に関して詳しく、その選択を完全で批判的に正当化をする

iv. 正確で詳細な計画図を発展させ、選んだ解決策の創作のために必要なことの要点をまとめる

規準 C 課題解決

i. 論理的で詳細な計画を作成し、リソースと時間の効果的な使用について記述し、ペアがソリューションの創作に十分従うことができている

ii. ソリューションを作るときに優れた技術を示している

iii. ソリューションの創作計画に従い、所定の役割を果たし、適切に示す

iv. ソリューション創作時に選んだデザインや計画の変更点を完全に正当化する

規準 D 評価

i. ソリューションの成果を判断するため、詳細な関連したテスト方法を設計し、データを生成する

ii. 根拠ある製品テストを基に、設計仕様書から離れてソリューションの成果を批判的に評価する

iii. ソリューションをどのように改善したか説明する

iv. 顧客／ターゲット層に対し製品の影響について説明する

MYP 評価規準	評価方法
規準 A：探究と分析 規準 B：アイデアの発展 規準 C：課題解決 規準 D：評価	1 学期は、座学が主体になりますのでテストを評価規準にします。 2 学期は、テストと課題での評価となります。 3 学期は、課題での評価になります。

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	1 学期は、座学が主体になりますのでテストを評価規準にします。 2 学期は、テストと課題での評価となります。 3 学期は、課題での評価になります。

使用教材

教科書：最新情報Ｉ（東京書籍）

学習内容

①　コンピュータと情報の処理 コンピュータにおいて、情報が処理される仕組みや表現される方法を理解させる。 ②　情報通信ネットワークの仕組み 情報通信ネットワークの構成要素、プロトコルの役割、情報通信の仕組み及び情報セキュリティを確保するための方法を理解させる。 ③　情報と問題解決 情報と情報手段を活用した問題の発見と解決に関する基礎的な知識と技術を習得させ、適切に問題解決を行うことができる能力と態度を育てる。 ④　アルゴリズムとプログラム アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得させ、実際に活用 する能力と態度を育てる。
備考

国際教養・１～６学年 【国際１～６】

６か年を通した教科目標/養いたい力

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

ここで国際理解・人間理解・理数探究とは、現代的な諸課題を見る３つの視点である。

○ 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。

○ 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。

○ 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。

各学年【国際】の目標/伸ばしたい力

〈1 年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対しての耐性を養う。

〈2 年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。

〈3 年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。

〈4 年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。

〈5 年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。

〈6 年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

MYP/ISS 評価規準	評価方法
総合的な学習/探究の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はありません。	各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。

文部科学省　学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。 国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。

学習内容

1 年 「国際１」、「Learning in English 1」

2 年 「国際２」、「Learning in English 2」

3 年 「国際３」、「Pre Immersion」、「Learning in English 3」

4 年 「MYP Personal Project／課題研究」、「Global Issues」、「英語以外の言語」

5 年 「総合的な探究の時間」「Global Issues」「英語以外の言語」

6 年 「総合的な探究の時間」「国際 A」「国際 B」

上記の科目・総合的学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプⅠ・Ⅱ（国内）・Ⅲ（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動をします。さらに、5・6 年の「総合的な探究の時間」では、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。

総合的な探究の時間・4/5/6 年 【国際 4/5/6 各 1 単位】 Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study

6 か年を通した教科目標/養いたい力

「国際教養」の目標は以下のとおりである。

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

各学年【総合的な探究の時間】の目標/伸ばしたい力

上記の通りですが、各学年ではそれぞれ特に次のことを目指します。

〈4 年生〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、課題について調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。

〈5 年生〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。

〈6 年生〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こす。

〈国際 4〉Personal Project MYP 評価規準	評価方法
合計 24 点満点・7 段階 規準 A 計画(8 点) 基準 B スキルの応用(8 点) 規準 C 振り返り(8 点)	Personal Project はプロポーザル、プロセスジャーナルのエビデンス、報告レポート(9 月提出)、完成成果物(9 月提出)、自己評価(9 月提出)、出席状況・取り組み状況を材料として評価します。

〈国際 5 /6〉総合的な探究の時間 評価基準	評価方法
合計 24 点満点・6 段階 規準 A 研究の目的と意義：6 規準 B 研究の方法・計画と資料の収集:6 規準 C 結果と考察：6 規準 D 結論と課題・展望： 6	総合的な探究の時間は、中間論文（5 年）・最終論文（6 年）を評価します。その他、形成的評価として研究計画書や研究経過報告書、出席状況や取り組み状況を評価します。

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

	研究計画書・研究経過報告書・論文・行動観察・研究ノート・振り返りなどを用いて、各観点に応じて、以下の視点から評価します。なお総合的な探究の時間は記述での評価となります。
知識・技能	● 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解しているか。
思考・判断・表現	● 現代的な諸課題から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現しているか。
主体的に学習に取り組む態度	● 探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしているか。

学習内容

〈国際 4〉Personal Project

- MYP の学習の集大成として Personal Project に取り組む。
- 自らの興味関心に沿って社会にどう役立つのかを考えて課題を設定し、学習目標と成功規準を作成した上で、自分の力で調査し、分析し、成果物や報告レポートを仕上げ、プロジェクトという形にする。

〈国際 4 後半/5/6〉総合的な探究の時間（課題研究）

- 本校における探究学習の集大成として、2 年間(実際には 4 年生後半から)かけて「課題研究」に取り組む。
- 自分の問題意識に照らして研究課題を設定し、適切な研究方法で分析・考察を進め、論文にまとめる。

〈国際 5〉海外ワークキャンプ

- 本校独自の学習領域「国際教養」の集大成として、海外で異文化に触れ、多様な社会・文化のあり方を知るとともに、自国の文化を再認識する。
- 海外で多様な文化に生きる人々と現代的な課題について共有し、議論する力を伸ばす。

備考

4 年生の「総合的な探究の時間」(前半は Personal Project、後半は課題研究)は、生徒全員が履修します。

5 年生・6 年生の「総合的な探究の時間」(探究)は、「理数探究」との選択必履修となり、2 年間にわたって必ず履修します。

国際教養群・４学年 【英語以外の言語：フランス語/ドイツ語/スペイン語/中国語/韓国・朝鮮語・2 単位】

French, German, Spanish, Chinese, Korean

６か年を通した教科目標/養いたい力	
国際教養の科目として、多文化理解を深め、コミュニケーションスキルを育成し、英語以外の言語の言語能力の獲得を目指します。	
４学年【英語以外の言語】の目標/伸ばしたい力	
国際教養の科目として、母語としての MYP 言語 A（国語）および付加的言語としての MYP 言語 B（英語）に加えて、MYP の３つの基本概念のひとつである多文化理解を深めるために、英語以外の言語の初級の言語能力の獲得を目指します。	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準 A：Listening	テスト
規準 B：Reading	テスト
規準 C：Speaking	インタビュー、スピーチ、プレゼン
規準 D：Writing	テスト
文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める３つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing)
思考・判断・表現	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing)
主体的に学習に取り組む態度	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing) ・Effort（日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価）
学習内容	
各言語の基本的な発音、語彙、文法を学び、話す、聞く、読む、書く力を総合的に学びます。また各言語圏の文化の理解を深め、コミュニケーション活動を通して、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。 【フランス語】 教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルの文法を学びながら、日常会話を中心にコミュニケーション活動のためのフランス語習得を目指します。また、フランス語圏の国々の文化への興味・関心の育成を目指します。 【スペイン語】 教科書と講師オリジナルのプリントを使用して、基本から初級レベルの文法を学びながら、すぐに役立つ日常会話も学びます。ここでのスペイン語学習のモットーは「楽しく新しい言語を学ぶ」ことです。映像や音楽を通して、スペイン語圏の文化や暮らしを学ぶことを大切にして学習を進めていきます。 【ドイツ語】 ドイツ語の基本から初級レベルの知識、日常表現の習得を目指します。授業ではＣＤやＤＶＤ教材なども使用し、実際にドイツ語を使う場面を想定した練習をしたいと思います。音楽や文学、スポーツなど、ドイツ語圏の文化にも触れる予定です。 【中国語】 教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルのコミュニケーションのための中国語を勉強しながら、中国及び中国語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。 【韓国・朝鮮語】 教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルのコミュニケーションのための韓国・朝鮮語を勉強しながら、その言語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。	
備考	
この科目は選択です。履修選択のオリエンテーション等を参考に、選択する言語を確定してください。また、５学年で選択する言語は、４学年と同じ言語を選択しなければなりません（言語の変更は原則認められません）。	

国際教養群・４学年 【Global Issues・2 単位】

Global Issues

６か年を通した教科目標/養いたい力	
４年次（２単位）と５年次（２単位）で英語で様々な地球規模の今日的課題について学び、考え、自分の意見をまとめる力をつけることを目標とします。	
４学年【Global Issues】の目標/伸ばしたい力	
知識と概念を理解し、それらを様々な社会的、文化的、歴史的、個人的な文脈において活用できる力と、コミュニケーション能力の育成を目指します。	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準 A　知識と理解 規準 B　調査研究 規準 C　コミュニケーション 規準 D　批判的思考	インタビュー、ワークシート、作品、テスト、スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、ディスカッションによって、規準 A～D の観点を評価します。
文部科学省　学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	規準 A 知識と理解・規準 B 調査研究 規準 C コミュニケーション・規準 D 批判的思考 規準 C コミュニケーション・規準 D 批判的思考・Effort （日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価）
学習内容	
以下のようなトピックを、じっくり時間をかけて多角的に取り扱うことを予定しています。 国際政治、国民国家、時事問題	
備考	
この科目は選択です。授業で使用する言語は英語です。4 学年で＜Global Issues＞を選択した場合， ５学年では＜英語以外の言語＞は選択できません。	